

地域ぐるみで子どもを育てる取組の一考察

広陵町立真美ヶ丘第一小学校 教諭 上 西 孝 生

Uenishi Takao

要 旨

本校は、新興住宅地に位置し、歴史の浅い学校である。そのため、PTAや家庭との連携・協力はできているが、地域との結び付きは強いとはいえない。そこで、地域との連携を深めるために、近隣の学校である畿央大学との連携を行った。また、PTAや家庭との連携をより緊密なものにするための取組や地域の教育力を活用する取組を進めた。その結果、挨拶を中心とした社会性をわずかながらであるが、身に付けることができることが明らかになった。

キーワード： 触れ合い、地域の大学生、PTA、地域の方

1 はじめに

奈良県地域教育力サミットにおいて、地域の教育力向上のためには、人間関係を育む地域活動の活性化と地域のネットワークづくりや地域における子育て支援、学校行事への保護者・地域住民の参画促進等が必要であるとされている。

本校においては、安全指導ボランティアの活動やマラソン大会をはじめ各種学校行事への協力等、PTA組織や家庭との連携を進めている。しかし、本校は新興住宅地にあり比較的歴史の浅い学校であるため、地域との結び付きは余り強くない。そこで、これまでの取組を充実・発展させ、地域ぐるみで子どもを育てる取組についての具体的な方策を模索する。

2 研究目的

学校とPTAや家庭・地域との連携の取組を充実・発展させ、地域や学校の様々な活動を支える人たちの力を結集し、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりの方策を模索する。

3 研究方法

本校では、今年度から畿央大学と連携し、ボランティアクラブの学生と児童とが触れ合う機会をもったり、PTAとのより緊密な連携を図ったりするための方策を検討する。あわせて、アンケート調査を実施し、取組の前後で地域の人への関わりや挨拶についての児童の意識の変容を検証する。

4 研究内容

(1) 学校・地域の連携事例調査（平成23年度教育研究所社会教育部「学校・地域の連携に関するアンケート調査」県内小学校199校が回答）

県内の小学校では、次のような地域と連携を図っている事例があり、大きく3種類に分類

することができる。

ア 校区に卒業生が多い学校

保護者・地域の方に卒業生が多く、地域で学校を大切にする雰囲気がある学校では、地域の各種団体（自治会・民生委員・社会福祉協議会等）が「子育てネットワーク」を組織したりボランティアが学校支援を行ったりしている。また、運動会に地域住民が参加する事例もある。

イ 比較的歴史が浅い学校

歴史が浅いなど地域との連携が取りにくい実態がうかがえる学校では、PTAとの連携を手掛かりにして地域の方に学校行事への参加を呼びかけている。

ウ 地域との連携が充実している学校

様々な場面で地域との連携を図っている学校では、自治体が学校支援ボランティアを任命したり、小学校と中学校とが合同で運動会を実施して地域の方が参加したりする取組もみられた。また、地域の祭りに小・中学生の作品を展示したり、長期休業前に地域の全ての家庭に学校からプリントを配り、休み中の子育て支援を呼びかけたりする取組がみられた。

読み聞かせ・お話し会
環境整備
安全に関する指導
教科の講師
昔遊びの指導
学校行事の支援
郷土文化の指導
農業・園芸の指導
図書の貸出、整理

図1 地域による主な支援内容

(2) 畿央大学との連携

本校は新興住宅地に位置し、上記(1)イの比較的歴史の浅い学校に分類されるため、地域との連携は余り密接とはいえない。近隣にある畿央大学とはインターンシップを受け入れたり、本校の多くの児童が学園祭に行ったりするなど以前よりつながりがあった。そこで、地域との連携の体制づくりの一つとして、畿央大学との連携を計画的に実施することにした。



図2 インターンシップ

ア 本年度の連携

- ・インターンシップを受け入れ、毎週金曜日に4年生の児童と学生が授業を中心に一緒に活動した。
- ・平成24年5月21日（月）金環日食の観測映像の提供を受け、視聴した。
- ・平成24年10月27日（土）「第1回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」（オータム・フェスティバルと併催）を開催し、児童延べ150名、保護者6名、畿央大学生8名の参加があり、運動場の芝生の上で、「しっぽとり」「玉入れ」「フラフープくぐり」等のゲームを楽しみ、畿央大学ボランティアクラブの学生と触れ合う活動を実施した。
- ・平成24年11月17日（土）「第2回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」の開催を予定していたが、感染症予防対策のために中止になった。
- ・平成25年2月1日（金）「第3回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」を開催した。

イ アンケート調査

上記アの「第1回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」の活動に参加した児童と

保護者、畿央大学の学生を対象に、地域の人々との関わりや挨拶に対する児童の意識が、畿央大学の学生と触れ合うことによって、どのように変わったか、また、畿央大学の学生の子どもたちに対する意識の変容やこの活動に対する意識を探るために、アンケート調査を実施した。アンケートの回収は、児童78名、保護者4名、畿央大学生8名であった。



(7) 取組前の児童の意識

児童の地域の人との関わりに対する意識を探るためにアンケートを実施した。

図3 「第1回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」

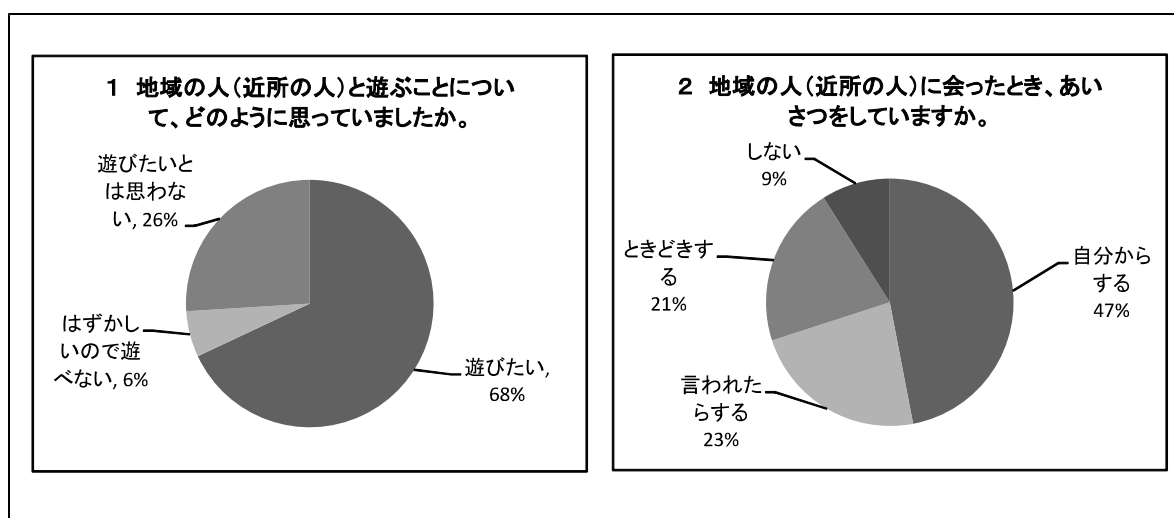


図4 地域の人との関わり、挨拶についてのアンケート結果

地域の人と遊びたいと思っている児童は68%と多く、様々な人とコミュニケーションをとりたいという願いをもっていることが分かる。その反面、自分から進んで挨拶をすると答えた児童は47%であり、地域の人への挨拶については消極的な児童が多い。

(イ) 取組後の児童の意識

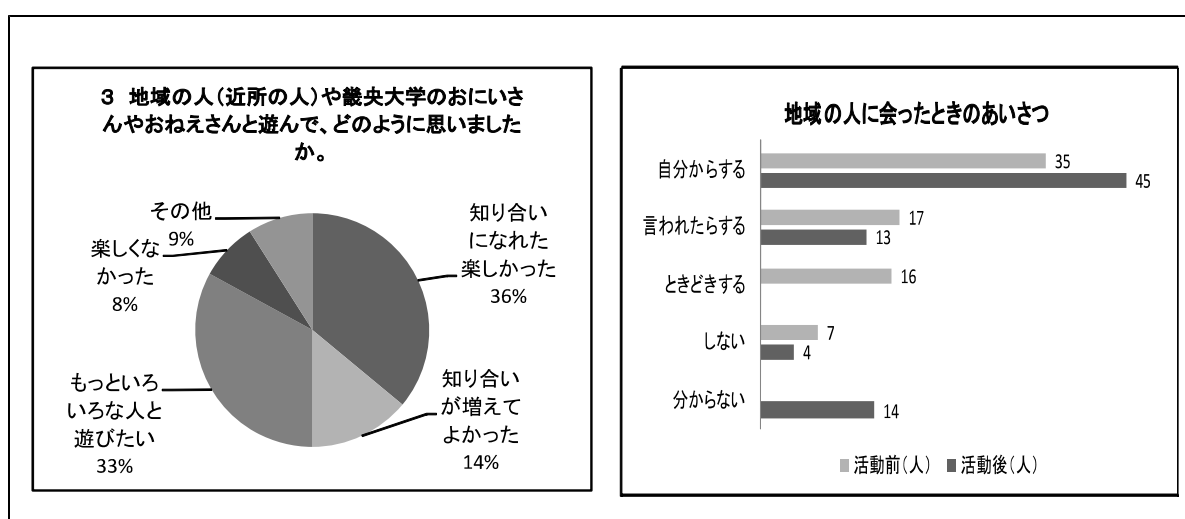


図5 児童の地域の人に対する意識の変容

今回のように大学生と触れ合う活動を、80%以上の児童が「楽しかった」「もっと遊びたい」と思っている。地域の人への挨拶についても、「自分からする」と答えた児童がわずかながらではあるが増えた。また、「地域の人と遊びたいとは思わない」「はずかしいので遊べない」と思っていた児童も、活動をすることにより「楽しかった」「知り合いが増えてよかった」「もっといろいろな人と遊びたい」等、関わりをもつことに積極的な姿勢へと変わった。今回は、短い時間の触れ合いであったが、児童の意識に明確な変化がみられた。地域の人と触れ合うことは、児童のコミュニケーション力や人間関係を育むのに重要であると分かった。

(ウ) 畿央大学の学生のアンケート結果と感想

① 今日、「畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう！」に参加されるまでは、子どもたちに対してどのようなイメージをおもちでしたか。(挨拶、態度、ふだんの様子等)

- ・元気で明るく活発な子が多いが、自分から声をかけにくい子もいる。
- ・元気で活発な様子を思い浮かべていた。
- ・鬼ごっこなどより友達と遊んだ方が楽しいと思うので、参加してくれないだろうと思っていた。
- ・元気で活発だと思っていた。しかし、しっぽとりや玉入れで一緒に遊んでくれるか少し不安だった。
- ・元気があり、外で走り回るのが大好きなんだろうと思っていた。

② 今日、「畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう！」に参加されたことで、そのイメージは変わりましたか。どのように変わりましたか。

- ・意外と元気に私たちと遊んでくれたので、活発な子たちだと思った。
- ・たくさん子どもたちが一緒に遊んでくれたので、楽しかった。
- ・元気で活発な子どもが多く、積極的に遊びに来てくれる子どもがたくさんいた。
- ・思ったより素直で、大学生ともすぐに仲よくなってくれるなあと思った。

2 今日、「畿央大学のおにいさん、おねえさんと遊ぼう！」に参加されたことで、そのイメージは変わりましたか。

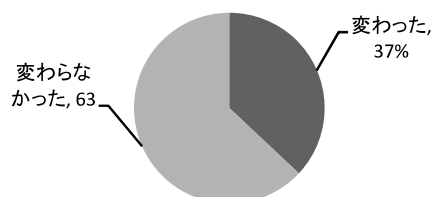


図6 畿央大学の学生の意識の変容

③ 今日の活動に参加してどのように思われましたか。

- ・とても楽しかったし、消極的な子にもこちらから積極的に声かけすることで、喜んで参加してくれたのでとてもうれしかった。また、こういった機会があれば、是非参加したい。
 - ・うまくいか不安だったり、人が集まるか悩んだりしていたが、元気いっぱい子どもたちと楽しい時間を共有できてとてもよかった。
 - ・始めは不安でいっぱいだったが、子どもたちみんな楽しそうに遊んでくれて私も楽しい気持ちになった。つい子どもたちのころに戻って遊んでいるような気分になった。
- 今後も、また機会があれば何らかの形で活動に参加したいと思う。

- ・とても楽しく活動できた。機会があればまた参加したい。
- ・様々な年齢の子どもたちと遊べ、とてもよい経験になった。
- ・子どもたちも思ったよりも参加してくれて、一緒に遊べて楽しかった。また、参加してみたい。
- ・すごく楽しかった。子どもたちともすぐにうちとけることができたので、逆に遊んでもらった気分にもなった。

畿央大学の学生は、子どもたちについて、元気で明るく活発だというイメージをもっていたが、その反面、自分から声をかけにくい子もいて、一緒に遊んでくれないのではないかという不安をもっていたようである。しかし、この活動を通して、喜んで参加してくれたのでとてもうれしかったなどの感想をたくさんもらい、学生の児童や活動に対する意識が大きく変わった。

(3) P T Aとのより緊密な連携

地域と共に子どもを育てる体制づくりを進めるための一つとして、P T Aや家庭とのより緊密な連携・協力を図った。「金環日食時の登校指導と観測」や「緊急事態発生時における児童引渡し訓練」「校舎大規模改修に伴う物品の移動」等、学校行事にP T A・家庭の協力を得た。



図7 学校行事へのP T A・家庭の協力

また、「安全指導ボランティアの活動」「第1回お弁当会」「第1回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」(オータム・フェスティバルと併催)等、P T Aの行事に学校として積極的に関わりをもった。



図8 学校が積極的に関わったP T Aの行事

(4) 地域との連携

地域との連携を深めるための取組として、地域の教育力の活用を積極的に行った。地域の人と一緒に様々な体験をする中で、子どもたちは人々のやさしさや思いやりに気付くことができた。

- ・ さつまいも掘り（地域の方の畑）
- ・ お話の会（毎月1回 地域の方）
- ・ 歯磨き学習（学校歯科医）
- ・ 昔の遊び（地域のお年寄り）
- ・ ぼんがしづくり（広陵町内事業所の方）
- ・ 被害防止教室（香芝警察署、中南和サポートセンター）
- ・ 工場、商店、施設等の見学（広陵町内）



図9 地域との連携の様子

畿央大学との連携			地域との連携		
実施日	内容	対象	実施日	内容	対象
毎週金曜日	インターンシップ	4年1組	毎月1回	お話の会	1年・附属幼稚園児
平成24年5月21日	金環日食の観測映像の提供・視聴	全校	平成24年5月10日	町クリーンセンター見学	4年
平成24年10月27日	「第1回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」	オータム・フェスティバル参加者	平成24年5月18日	町立図書館見学	3年
平成24年11月17日	「第2回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」	予防対策のため中止	平成24年5月22日	町水道局見学	4年
平成25年2月1日	「第3回畿央大学のおにいさん・おねえさんと遊ぼう」	全校	平成24年6月1日	教行寺・中央公民館見学	3年
			平成24年6月5日	県浄化センター見学	4年
			平成24年6月13日	町役場・さわやかホール見学	3年
			平成24年6月27日	CAPワークショップ	4年
			平成24年9月5日	広陵消防署見学	4年
			平成24年10月4日	歯磨き学習	3年
			平成24年10月11日	被害防止教室	全校
			平成24年10月16日	靴下工場見学	3年
			平成24年10月25日	スーパーヤオヒコ見学	3年
			平成24年10月31日	さつまいも掘り	1年・2年
			平成24年11月20日	ぼんがしづくり	1年
			平成24年12月5日	昔の遊び	1年
			平成25年2月8日	手話の学習	4年

図10 今年度行った地域と連携した取組

5 研究結果と考察

(1) 児童の意識の変容

地域の人（近所の人）と触れ合うことについて、事前には「はずかしいので遊べない」「遊びたいとは思わない」と思っていた児童の80%が、地域の人や畿央大学の学生と触れ合う活動をする中で、「知り合いになれて楽しかった」「知り合いが増えてよかった」「もっといろいろな人と遊びたい」と思うようになった。また、地域の人への挨拶に対する意識も、「自分からする」がわずかながら増えた。このこ

とから、地域の人と触れ合う機会をもつことにより児童と地域の人とのつながりが生まれ、学校外で出会ったときにも挨拶ができるようになるのではないかと考えられる。

また、様々な活動後の児童の感想の抜粋を以下に示す。

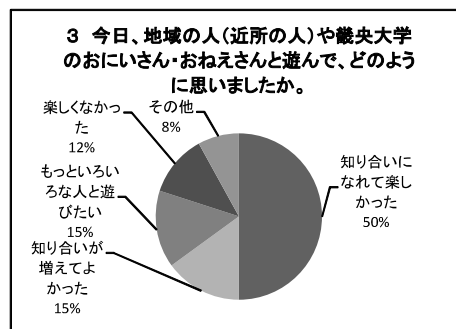


図11 児童の意識の変容

○ 歯磨き学習後の児童の感想（3年生）

・ぼくは、菌の種類が300～500もあって、5億～10億個も菌があるなんて全く知りませんでした。歯を磨くとき、歯ぐきと歯を強く磨かず弱く磨くといいと教えてくださってありがとうございました。これから教えてくれたことを意識して、歯を大切にします。

・私は、口の中にあんなに菌があるのを初めて知りました。教えてもらって何回も磨こうと思いました。歯をしっかり磨かないと虫歯になることが分かりました。教えてもらってうれしかったです。

○ さつまいも掘り後の児童の感想（1年生）

・お芋掘りに行ったよ。スコップで土を掘るといっぱいくつついているのが見えました。がんばって掘ったから一番でかいのがはじめにとれて、やったあとと思いました。ぼくは、お芋が好きだから早く持って帰って食べたいです。

・お芋掘りをしたよ。小さいお芋なのに固くて一個抜くの10分かかったよ。おばあさんが芋を焼いてくれたよ。食べるとすごくおいしかったよ。二年生になっても行きたいよ。

○ 昔の遊び後の児童の感想（1年生）

・今日、おじさんとおばさんが来てくれて、昔遊びを教えてくれたよ。こまは、幼稚園のときにできなかったけど、上手に回せたよ。それは、おじさんが教えてくれたからだよ。おてだまも、ちょっとだけできるようになったよ。おばさんがほめてくれたよ。うれしかったよ。

(2) 畿央大学との連携の効果

近隣の学校である畿央大学との連携では、金環日食の観測映像の提供と、ボランティアク

ラブの学生との交流を実施した。児童との触れ合いは午前中だけの短時間ではあったが、アンケートには「知り合いが増えてよかった」「もっといろいろな人と遊びたい」「挨拶を自分からする」の項で高まりが見られ、コミュニケーション力や社会性を育むのに効果があったと考える。一方、畿央大学の学生にとっても、「様々な年齢の子どもたちと遊ぶ、とてもよい経験になった」「よい思い出になり、小学生の子どもたちと触れ合うことで学べる」など、将来教職を目指す学生も多く、学ぶことが多かったようである。また、児童との触れ合いだけではなく、学生とPTAとのつながりもでき、今後の連携の幅を広げるきっかけになったと考える。

(3) PTA・家庭や地域との連携の効果

PTA・家庭との連携では、マラソン大会時の安全確保や校舎大規模改修に伴う物品移動の協力、大掃除の協力などのように、学校の行事にPTA・保護者の協力を得るだけではなく、第1回お弁当会やオータム・フェスティバルなどのPTA行事に学校がプログラムの一つを受け持つなど学校側から積極的な関わりをもった。このことは、PTAと学校とのより緊密な関係の構築につなげることができたと、保護者の声などから考えることができる。また、その他地域との連携では、地域の農家の方、お年寄りの方、広陵町内の工場・商店・施設など様々な方にゲストティーチャーとして学校に来ていただいたり、見学させていただいたりすることができた。



図12 PTAの方と一緒に大掃除

6 おわりに

子どもたちにコミュニケーション力や社会性を身に付けさせるためには、様々な人と触れ合う機会をもつことが大切であると今回の取組を通して強く感じた。多くの人と触れ合う機会をもつためには、PTA・家庭や地域との連携を図ることが不可欠である。PTA・家庭や地域との連携を深めるためには、よい関係をつくることが大切である。畿央大学の学生の感想に、「もっともっとふれあっていきたい」「うれしかった」「また是非参加したい」などが多くあったことは、今回の活動で本校と畿央大学とのよい関係をつくることができたと考える。よい関係をつくるためには、学生が最初もっていた「うまくいくか不安だったり、人が集まるか悩んだりしていた」「初めは不安でいっぱいだった」などの不安や準備の負担を軽減しなければならない。そのためには、事前の打合せを密にして活動の内容を一緒に考えたり、準備物の製作を分担したりすることが必要だと考えられる。

特に、PTAとの連携では、学校行事にPTA・家庭の協力を得るだけではなく、PTAの行事に学校が積極的に関わりをもつことがよい関係づくりには重要である。本年度は保護者にだけ案内を配布し参加を呼びかけたが、来年度は地域の老人会や自治会、畿央大学のボランティアクラブ以外の学生にも参加を呼びかけ、様々な人との触れ合いを計画し、子どもたちの社会性を更に高めたい。そのためには、校内に窓口となる分掌を設けて地域の様々な団体と計画的に連携を図ることが大切である。また、来年度は学校創立30周年の年であり、PTAと学校との信頼関係を強め相互の連携を更に深めたい。